

教育協力プロジェクトのモニタリング・評価指標ガイドブックの開発：学校教育編

教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)

片山信彦

1. 目的

学校教育分野の協力事業の指標の設定、指標データの入手方法、分析方法についてのガイドブックを開発する。

2. 活動

対象地域：全世界

- (1)教育協力 NGO ネットワークに参加している 28 の NGO の中から事業規模、介入の内容・方法が比較的典型的であると考えられる学校建設、教材開発、教員研修、学校運営分野の良き事例を選定する。
- (2)専門家の協力によって、これらの事業の各レベル(上位目標、プロジェクト目標、成果)の指標、データの入手方法、データの分析方法を検討、改善し、モデル案を作成する。
- (3)開発されたモデル案を事例の事業が実施されている途上国において検証する。
- (4)以上のプロセスを経て、汎用性の高い学校教育分野の協力事業の指標モデルについてハンドブックとしてとりまとめる。

3. 成果

(1) 期待する成果

教育協力機関(特に NGO)従事者が、教育協力事業における上位目標、プロジェクト目標、成果の達成度をモニターし、評価するための指標を設定し、指標データを入手し、分析を行うための能力が高まることが期待される。

(2) 成果物

『教育協力プロジェクトのモニタリング・評価指標ガイドブック：学校教育編』(和文、200 部)

構成案は以下のとおり。

1. 教育協力事業における定量分析の有効性と限界
2. 学校建設事業の指標と分析方法
3. 教員研修(教材開発)事業の指標と分析方法
4. 学校運営改善事業の指標と分析方法

教育協力プロジェクトのモニタリング・評価指標ガイドブック の開発:学校教育編 教育協力NGOネットワーク(JNNE)

目的

学校教育分野の協力事業の指標の設定、指標データの入手方法、分析方法についてのガイドブックを開発する。

活動

1. 教育協力NGOネットワークに参加している28のNGOの中から事業規模、介入の内容・方法が比較的典型的であると考えられる学校建設、教材開発、教員研修、学校運営分野の良き事例を選定する。
2. 専門家の協力によって、これらの事業の各レベル(上位目標、プロジェクト目標、成果)の指標、データの入手方法、データの分析方法を検討、改善し、モデル案を作成する。
3. 開発されたモデル案を事例の事業が実施されている途上国において検証する。
4. 以上のプロセスを経て、汎用性の高い学校教育分野の協力事業の指標モデルについてハンドブックとしてとりまとめる。

成果物(予定)

『教育協力プロジェクトのモニタリング・評価指標ガイドブック:学校教育編』(和文、200部)
構成案は以下のとおり。

1. 教育協力事業における定量分析の有効性と限界
2. 学校建設事業の指標と分析方法
3. 教員研修(教材開発)事業の指標と分析方法
4. 学校運営改善事業の指標と分析方法



カンボジアでの教員研修 提供:
(社)シャンティ国際ボランティア会

jnne
教育協力 NGO ネットワーク (JNNE)

教育協力プロジェクトのモニタリング・評価指標ガイドの開発： 学校教育編

教育協力NGOネットワーク(JNNE)
代表 片山信彦

教育協力NGOネットワーク

- 教育協力NGOネットワーク
(Japan NGO Network for Education : JNNE)
- 目的： EFA目標達成に貢献すること。教育協力に関わるNGOのネットワーク組織
- 設立： 2001年1月
- 活動： 情報交換。調査研究、能力強化、政策提言、広報活動
- 会員団体：28団体、2大学(2010年)
- <http://jnne.org/>

事業目的、期待される成果

- 学校教育分野の協力事業の指標の設定、指標データの入手方法、分析方法についてのガイドブックを開発する。
- 教育協力機関(特にNGO)従事者が、教育協力事業における上位目標、プロジェクト目標、成果の達成度をモニターし、評価するための指標を設定し、指標データを入手し、分析を行うための能力が高まることが期待される。

実施体制

- 活動実施者で構成された検討委員会で、計画の検討、実施の運営管理、助言を行う。
- 教育協力NGOネットワーク(JNNE)の加盟団体である、ワールド・ビジョン・ジャパン、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、シャンティ国際ボランティア会、外部専門家によって構成されたタスクチームを中心に実施する。

事業概要・活動内容

1. 教育協力NGOネットワークに参加している28のNGOの中から事業規模、介入の内容・方法が比較的典型的であると考えられる学校建設、教材開発、教員研修、学校運営分野の良き事例を選定する。
2. 専門家の協力によって、これらの事業の各レベル(上位目標、プロジェクト目標、成果)の指標、データの入手方法、データの分析方法を検討、改善し、モデル案を作成する。
3. 開発されたモデル案を事例の事業が実施されている途上国において検証する。
4. 以上のプロセスを経て、汎用性の高い学校教育分野の協力事業の指標モデルについてハンドブックとしてとりまとめる。

成果物:「教育協力プロジェクトのモニタリング・評価指標ガイドブック:学校教育編」

構成

はじめに (指標設定に関する問題意識)

1. 教育協力事業の指標の設定方法
2. 教育協力事業の上位目標の指標
3. 学校お建設事業の指標(プロ目と成果の指標)
4. 教員研修・教材開発事業の指標(プロ目と成果の指標)
5. 学校運営改善事業の指標(プロ目と成果の指標)
6. 指標データの収集方法
7. 指標データの分析方法

進捗状況

- 研究会を5回開き、指標モデル案を作成した。
- 作成した指標モデル案を事業が行われている途上国で検証し、指標モデル案のフィードバックをもらっている。

	国	協力組織
学校建設事業	ケニア	・ワールド・ビジョン・ケニア
教員研修・教材開発	カンボジア	・シャンティ国際ボランティア会 (SVA)カンボジア事務所 ・カンボジア教育省
学校運営改善	ネパール	セーブ・ザ・チルドレン ネパール事務所

学校建設事業(1)

<学校建設>			
プロジェクトの要約	指標	指標データ入手手段	留意点
プロジェクト目標			
教育の物理的環境が改善する	①安全、快適な教室で学ぶ生徒数が増加する	・安全で快適な教室の数 ・クラス別生徒数	
	②シフト制(二部制・三部制)が解消する	・出席簿 ・教員へのインタビュー	
	③授業時間数が増える	・校長/教員へのインタビュー ・生徒へのインタビュー	
成果			
1. 教室数が増加する	1-1. 一校あたりの教室数が増加する	教室数	
	1-2. 一教室あたりの生徒数が減少する	・直接観察(教室数、クラス別生徒数) ・学校記録(クラス別生徒数)	
	1-3. 一生徒あたりの教室面積が増える	・直接観察(教室面積、クラス別生徒数) ・学校記録(教室面積、クラス別生徒数)	
2. 学校数が増える	2-2. 通学距離が3km以内の生徒数が増加する	・校長/教員へのインタビュー ・生徒へのインタビュー	
	2-3. 生徒の通学時間が短縮する	・校長/教員へのインタビュー ・生徒へのインタビュー	
	2-4. 寄宿児童数が減少する	・校長/教員へのインタビュー ・生徒へのインタビュー	
	3. 教室・施設が質が改善する	3-1. 教室の風通し(風が通る、空気が換気される)	・窓の位置、数 ・風通し
	3-2. 教室内の採光(黒板の文字や教科書が読める適切な明るさがある)	・窓の位置、数 ・明るさ ・教師・生徒へのインタビュー ・授業時の観察	
	3-3. 教室、廊下が清潔である	・清潔度(ゴミが落ちていないかなど)	
	3-4. 生徒数に対して机・椅子の適切な数がある 床に産む場合は、カーペットなど適切な敷物の上に生徒が産れる	・机・椅子の数と状態 ・敷物の有無、面積(生徒全体をカバーするか)、状態	
	3-5. 黒板、チョーク、黒板消しがあり、適切な状態に保たれている	・黒板、チョーク、黒板消しの有無 ・黒板の状態	

学校建設事業(2)

	3-6. 図書室が設置されている	・図書室有無、状態(本棚や図書の有無含む) ・管理方法 ・校長、教師、生徒へのインタビュー ・直接観察	
	3-7. 実験室が設置されている	・実験室有無、状態(実験機材の有無など) ・管理方法 ・校長、教師、生徒へのインタビュー ・直接観察	
	3-8. 教科書、文具、図書、実験機材などが適切に整備されている	・直接観察 ・管理方法 ・校長・教師へのインタビュー	
	3-9. 学校の外壁が存在する	・外壁有無 ・外壁の高さ、状態	
	3-10. 生徒が安全な水へアクセスできる	・水タンクなどの有無 ・水質 ・管理方法 ・教師・生徒へのインタビュー ・直接観察	
	3-11. 男女別のトイレがあり、生徒が利用している	・男女別トイレの有無 ・場所、利用しやすさ ・管理方法 ・トイレの清潔度 ・教員/生徒へのインタビュー ・直接観察	
4. 学校施設が適切に維持・管理される	4-1. 施設維持・管理のルール/マニュアルがあり、施設が整備されている	・ルールに関する資料、マニュアルの有無 ・学校運営委員会メンバーへのインタビュー	
	4-2. 定期的な点検・補修がなされている	・学校施設の状態 ・学校運営委員会メンバーへのインタビュー ・生徒へのインタビュー	
	4-3. 維持・管理するための資料・資金が確保されている	・予算書、会計報告書 ・学校運営委員会メンバーへのインタビュー	資料請求先 資料単価

教員研修事業(1)

<教員研修>			
プロジェクトの要約	指標	指標データ入手手段	留意点
プロジェクト目標			
学校教員の指導力・資力が向上する	①指導教科の専門的知識と技術の向上		
	②授業実践能力の向上(チェックリスト作成)		
	③学校運営能力の向上(チェックリスト作成)		
	④教員の態度・姿勢・倫理の向上 教員の遅刻・欠勤・勤務態度		教員の待遇面との関連性
成果			
1. 教員研修システムが確立されている	1-1. 教員研修機関/施設がある	・研修機関/施設の有無	
	1-2. 教員が1-1の研修場所へ行ってトレーニングを受けることが制度化されている	・研修教員研修の制度化有無	
	1-3. 教員研修のための予算がある	・教育局、研修機関の予算書、会計報告書	
	1-4. 教員研修ガイドラインがある	・ガイドライン有無	内容の妥当性もチェックする必要がある
	1-5. 学校管理職研修ガイドラインがある	・ガイドライン有無	内容の妥当性もチェックする必要がある
	1-6. モニタリングガイドラインがある	・ガイドライン有無	内容の妥当性もチェックする必要がある
	1-7. 教員研修の計画・実施・評価が長期計画/年間計画に基づいて適切に実施できている	・計画書、活動報告書、評価報告書など ・研修機関責任者/職員/トレーナーへのインタビュー	
	1-8. モニタリング・評価結果をもとにした研修カリキュラム改善の仕組みがある	・研修機関責任者/職員/トレーナーへのインタビュー ・モニタリング報告書、評価報告書 ・研修計画書	
	1-9. あらゆるレベルの教育行政機関および学校との報告・連絡・相談体制が確立している	・各教育機関/学校関係者へのインタビュー ・報告書類	
	2. 研修の教材・カリキュラムが整備されている	1-1. 体系化された教員研修のカリキュラムがある	・カリキュラム有無
1-2. 体系化された学校管理職研修のカリキュラムがある		・カリキュラム有無	内容の妥当性もチェックする必要がある
1-3. カリキュラムの単元ごと/教科ごとに教材がある		・教材有無	内容の妥当性もチェックする必要がある
1-4. 研修に必要な用具・機材、指導書・教材があり、整備されている		・用具と機材、指導書、教材の有無 ・用具/機材、指導書、教材の状態 ・管理方法	

教員研修事業(2)

3. トレーナー・指導者が機能している	3-1. 教員研修トレーナー・指導者の数	・トレーナー名簿	登録数と実際に研修を担当している(実施している)数の比較
	3-2. トレーナー・指導者が指導内容の知識・指導技術を身につけている	・研修観察 ・トレーナーへのインタビュー ・トレーニーへのインタビュー ・研修機関責任者へのインタビュー	
	3-3. トレーナー・指導者が担当単元/教科の研修を適切に実施している	・研修観察 ・トレーナーへのインタビュー ・トレーニーへのインタビュー ・研修機関責任者へのインタビュー	

学校運営事業(1)

<学校運営>			
プロジェクトの要約	指標	指標データ入手手段	留意点
プロジェクト目標			
学校運営が改善する	①学校運営・改善計画が策定・実施されている割合	・学校改善計画書 ・モニタリング記録 ・報告書	計画と実施状況の比較を行う
	②保護者・生徒の学校運営に対する関心・満足度が〇%増加する	・保護者・住民・生徒へのインタビュー/質問票	
成果			
1. 校長のリーダーシップが機能している	1-1. 学校運営・改善計画の実施において、イニシアティブをとっている	・校長へのインタビュー ・SMCメンバー、教員、住民へのインタビュー ・教育局へのインタビュー	
	1-2. 行政、教員、地域住民、保護者、生徒の連携を促している	・校長へのインタビュー ・SMCメンバー、教員、住民へのインタビュー ・教育局へのインタビュー	
	1-3. 問題が起きたときに適切に対処できる	・校長へのインタビュー ・SMCメンバー、教員、住民へのインタビュー ・教育局へのインタビュー ・学校改善計画書 ・年間計画書	
2. 学校運営委員会が適切に機能している	2-1. 学校改善計画に基づいた年間計画を作成している	・政策・規定の有無 ・SMCメンバー、住民へのインタビュー/質問票	少数派、女性の割合
	2-2. 学校運営委員会メンバー選出の方法について明確なルール・基準があり、かつ基準が遵守されている	・政策・規定の有無 ・SMCメンバーへのインタビュー/質問票	
	2-3. 運営のルールがあり、かつ遵守されている	・議事録/活動報告書	
	2-4. 定期的な自会合が開かれている(年〇回以上、運営委員会メンバーの80%以上出席している)	・議事録/活動報告書	
	2-5. 議事録を採している	・SMC会議の議事録	
	2-6. SMCメンバー全員に発言の機会が平等に与えられるような仕組みがある	・SMCメンバーへのインタビュー/質問票	
	2-7. 学校運営委員会が学校運営資金(補助金、住民寄付)を学校運営・改善計画に即して適切に活用している	・予算書、会計報告書	
	2-8. 定期的に、学校運営資金(補助金、住民寄付)の使途が地域住民に対して適切に説明(表示、掲示や総会での口頭説明等)されている。	・住民へのインタビュー/質問票 ・SMC総会の記録/報告書	公開の実績とその方法、住民の納得度

学校運営事業(2)

	2-9. 定期的に学校改善計画実施状況のモニタリングをしている	・学校改善計画実施報告書 ・SMO活動報告書 ・SMOメンバーへのインタビュー	
	2-10. 上記1-6のモニタリング結果を適切に改善計画に反映している	・学校改善計画実施報告書 ・SMOメンバーへのインタビュー	
	2-11 行説と適切に情報共有・連携を行っている(会議の頻度・予算交渉能力など)	・SMOメンバー、教育員へのインタビュー	
3. 保護者、地域住民が学校運営に積極的に参加している	3-1. 地域住民の、学校改善計画策定、実施、モニタリング等のプロセスに参加している数が、全体の過半数以上になっている(参加率が0%増加する)	・学校改善計画実施報告書 ・SMO活動報告書 ・住民へのインタビュー ・SMOメンバーへのインタビュー	
	3-2. 定期的に総会(SMOと住民との集会)が開かれている(年〇回)	・活動報告書 ・保護者/住民へのインタビュー	
	3-3. 生徒の声もみ上げられるような仕組みになっている(子どもクラブのSMO会議への参加など)	・子どもクラブ・生徒会へのインタビュー ・議事録/活動報告書 ・SMOメンバーへのインタビュー	
	3-4 地域住民からの学校運営改善のための資源動員状況(資金・労働力・資材など)	・学校改善計画実施報告書 ・SMO、住民へのインタビュー	
4. 教育行政が学校運営改善を支援している。適切に学校をモニタリングしている。	4-1. (OQレベルの教育局/教育委員会において) 妥当な内容の学校モニタリングシステムがある	・教育局記録 ・教育局インタビュー ・モニタリングマニュアル ・チェックリストの有無	モニタリング実施体制、頻度、専業、人的配置、情報のフィードバックシステムの有効性を確認する。
	4-2. 学校運営、モニタリングについて研修を受けた監督官、視学官の割合が全体の〇%以上	・研修記録	
	4-3. 学校運営の推進、モニタリングができる監督官、視学官の割合が全体の〇%以上	・サンプル調査	
	4-4. 教育行政が学校運営支援のために実施した行動の数	・学校運営改善に関する文書 ・教育局報告書 ・教育局インタビュー ・対象地域にある学校校長へのインタビュー	行動によって起きた変化の有無も確認
	4-5. 学校改善計画関係者の定期的なネットワーク会議、集会の頻度	・会議記録 ・参加者数	
	4-6. 教育行政官(監督官、視学官)による学校訪問の頻度	・教育行政官へのインタビュー/質問票 ・教育局記録 ・対象地域にある学校校長へのインタビュー	頻度だけでなく、訪問によって得ている内容、助言の内容の有効性についても確認する

学校運営事業(3)

4-7. 定期的なモニタリング報告書の提出の頻度	・教育行政官のモニタリング報告書の数、頻度	
4-8. 良い事例の収集の頻度	・モニタリング記録 ・SMO活動記録	
4-9. 学校改善計画に基づき適切に予算を配分している	・教育局予算書 ・教育局、SMOへのインタビュー	